

鳴門教育大学同窓会会報

2023年9月1日発行

ごあいさつ

鳴門教育大学同窓会会長 五 宝 友 哉

初秋の候、会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃は、同窓会の活動にご理解とご協力をいただき、まことにありがとうございます。

コロナ禍により、同窓会も多くの事業を中止せざるを得ない状況が続いておりましたが、本年度は中止していた事業を次々と再開しています。

4月15日には、会員54人出席のもと、総会を開催いたしました。令和5年度から6年度の理事を改選した後、令和4年度の事業報告と決算報告を承認し、令和5年度の事業計画と予算を決定しました。

また総会の後には、鳴門教育大学 佐古秀一学長から、「教師にとって『学び続ける』ということ」と題して、ご講演いただきました。内容をすべてご紹介できませんが、「専門職としての知識、スキルを身につける。」「教育には、正解はない＝これを（このように）教えておけばOK、という処方箋は、まずないことをよく理解しておく。」「経験を通して教師の関わり方をたえず見直し、修正していくことが必要。⇒リフレクション、モニタリング、デザイン、実践」「他者との対話（仲間、学校）により、自らの見解、考え方を確認、修正していく。」とお話してくださいました。教師にとって「学び続ける」ことの意義と重要性を再認識した貴重なお話でした。

そして講演会の後、理事会を開催し、次の方を役員として選出しました。[会長] 五宝友哉、[副会長] 月本直樹・横畠道彦、[会計監査] 富田知之・桑村裕佳、[理事] 藤本愛実里・栗野安香音・長谷美穂・田井芳乃・喜多海斗（敬称略）

今年の会報は、昨年に引き続き、理事の方々に、「母校に寄せる思い」を執筆していただきました。共に心を重ねて、なつかしい母校へ思いを馳せることにいたしましょう。

皆様のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。

令和5年度鳴門教育大学同窓会事業計画

1. 会員相互の親睦を厚くする事業

- (1) 学部・大学院新入生歓迎スペシャル（講演会・歓迎ランチ）
- (2) 学部新入生宿泊研修親睦補助
- (3) ホームカミングデー・コース別ランチ会
- (4) 卒業・修了記念パーティー開催補助
- (5) 同窓会・クラス会等後援

2. 会員相互の連携のための研究や交流を支援する事業

- (1) 都道府県支部集会関係
 - ①香川県支部総会・交流会
 - ②関東支部総会・交流会
 - ③広島県支部総会・交流会
 - ④静岡県支部総会・交流会
 - ⑤沖縄県支部総会・交流会
 - ⑥徳島県支部総会・交流会
 - ⑦愛媛県支部総会・交流会
 - ⑧高知県支部総会・交流会
 - ⑨大阪府支部総会・交流会
 - ⑩和歌山県支部総会・交流会
 - ⑪新規支部設立総会・交流会
- (2) コース別研究会・同窓会
 - ①学校数学研究会（数学コースの同窓会）
 - ②鳴教心友会（生徒指導・臨床コースの同窓会）
 - ③鳴門教育大学英語教育学会（英語コースの同窓会）

3. 鳴門教育大学の発展に寄与するため大学や学生を支援する事業

- (1) 在学生の都道府県人会（教員採用試験対策）
 - ①高知県人会開催支援
 - ②香川県人会開催支援
 - ③沖縄県人会開催支援
- (2) 学生の課外活動支援
 - ①鳴潮祭開催支援
 - ②美術コース修了・卒業展開催支援
 - ③阿波おどりサークル出演支援
 - ④国際交流パーティー開催支援
- (3) 新型コロナウイルス感染症対策支援

4. 通年事業

- (1) 同窓会会報の編集・発送
- (2) メールによる「同窓生のための何でも相談室」
- (3) 会員名簿の維持管理
- (4) 自転車のリサイクル事業
- (5) 大学構内のプランターの花植

5. 会議の開催

- (1) 理事会
- (2) 総会

母校に寄せる思い

■ 教員になるなら鳴門へ

鳴門教育大学同窓会理事 月 本 直 樹
(初等中等教育教員養成課程 社会科コース 平成5年度卒業)

今も残っていると思うが、大学プール西側の水路に、朽ちかけた細い橋が架かっている。この橋は、かつて私の祖父宅に入るために架けたもので、大学設立に伴い、家を引っ越したため、橋だけがそのまま残ることになったのである。

私も引っ越し当時の記憶があり、祖父が「大学ができることによって地域が活性化し、ひいては日本の教育を支える教師が、この鳴門の地から多数出るとことは誉れだ。」という意味のことを言っていたことを覚えている。教員にはならなかったものの、祖父も教員養成系の大学を出ていたため、自分の故郷に教育大学ができることに、特別の思いを寄せていたのかもしれない。

後日私も鳴門教育大学に入学し、たくさんの恩師と友人に恵まれた。さらには附属小学校でも長年勤務することにもなり、実習生という多くの後輩達と接する機会にも恵まれた。大学や附属小学校で得た経験は、現在の職務上、かけがえのない財産となって私を支えてくれている。

このような経験から、母校鳴門教育大学には、これまで以上に教育現場で生きて働く実践力を育成する大学になってほしいと願っている。ご存じの通り、現在の学校現場は、社会の急激な変化に伴い、様々な問題を抱えている。毎日、解決に悩むような問題が生じ、教員一人ひとりの実践力に頼って学校を運営している状況が否めない。そのような中で、教員養成大学は他に多くあれども、「鳴門教育大学で学べば生きて働く実践力が身に付く。」「教員になるなら鳴門へ。」と言われる大学になって欲しい。そして、祖父も思ったように、我らが母校から、これまで以上に日本や世界で教育により国や地域を活性化させる人材が育つことを願っている。

■ 「心の安心基地」 鳴門教育大学

鳴門教育大学同窓会理事 横 畠 道 彦
(生徒指導コース 平成11年度修了)

教員になって12年、力に任せた生徒指導に行き詰まりを感じるようになりました。スクールカウンセラーが中学校に配置され始めた頃でしたので、臨床心理学を学び教師として新たな活路を見いだそうと、平成10年4月に鳴門教育大学大学院生徒指導コース（15期）に入学しました。

しばらくして、臨床心理学系4人の教官の研究室を訪ねました。「臨床心理学の知見を、学校での生徒指導にいかす研究をしたい」と、私の考えを話しました。どの教官も、私の思いを、やさしいまなざしでしっかりと受け止めてくださいました。ある先生が、「自信をもって、学校の先生でいてください。臨床心理学を学ぶことで、先生としてのプラスαになればいいね。」と話してくれたことを覚えています。大学院での第一歩が、教師としての誇りを再認識することから始まった気がします。

そこからの2年間は、教官や仲間との関わりの中で、多くのことを学びました。とりわけ、子どもと泥だらけになり、共に泣いたり、笑ったり、怒ったりしながら、児童生徒の成長を促すこと。そして、教える自信と学ぶ謙虚さを忘れない教員でいること等に、気づくことができました。もちろん大学院修了後も、事あるごとに先生方の研究室にお邪魔し、ご指導をいただいています。また、生徒指導コース15期生の皆さんとは、「イチゴの会」なるものを結成し、現在も繋がり続け元気をいただいています。

4月から、長期履修学生支援センターに勤務しています。学生に、教員の魅力をしっかり伝えること。そして、人として成長し続けることのできる教員育成に向けてのお手伝い。加えて、鳴門教育大学が卒業生や修了生は言うまでもなく、各地で活躍している教職員の「心の安心基地」となれるよう、私自身努力してまいります。

■ 母校におもうこと

鳴門教育大学同窓会理事 藤 本 愛実里
(中学校教育専修 保健体育科教育コース 平成25年度卒業)

鳴門教育大学を卒業し、教員として働き始めて10年が経ちました。在学時代を振り返ってみると、人と人とのつながりがとても深いものでした。学生同士はもちろん、先生方や職員の方々も私たち一人一人の顔と名前を覚えてくださり、親しくお声かけいただきました。先生方からは、日々の講義だけでなく、ゼミ活動などを通して、教師の力量形成や社会人としての在り方など広範な視座の構築について教えていただきました。また、先生方がどんな相談にも親身になってアドバイスをしてくださり、私たちが全力で物事に取り組めるようにサポートしてくださったことを思い出し、ありがたさを感じます。

鳴教は、規模の大きな大学とは違って、出会いの機会が少なかったのかもしれませんが。ただ、その分、一人一人と豊かな時間を共有することができ、強いつながりを築くことができました。

現在、私は鳴門教育大学附属中学校で勤務しています。当時と変わらず、大学の先生方はどんな相談にも親身になってアドバイスをしてくださり、授業や研究に全力で取り組めるようにサポートしてくださります。卒業しても、先生方からの変わらない深い愛情を感じ、鳴教に通ってよかったと改めて実感しています。また、いたるところに鳴教の仲間や先輩・後輩がいる心強さはほかに変えられません。母校鳴門教育大学で築いたつながりをいつまでも大切にし、大学卒業時に語った目標に向かって着実に進んでいきます。そして、これからも同校の教員や実習生に教師の魅力ややりがいを伝えていきます。

令和4年度決算書・令和5年度予算書

◎収入の部

単位：円

	4年度決算	5年度予算	摘 要
前年度繰越金	1,770,002	2,852,114	
会 費	5,380,000	4,540,000	
雑 収 入	656	300	預金利子
合 計	7,150,658	7,392,414	

◎支出の部

単位：円

	4年度決算	5年度予算	摘 要
運 営 費			
事 務 費	1,962,568	2,750,000	人件費、通信費、印刷費、事務用品費、事務室料等
会 議 費	34,633	150,000	総会、理事会等
派 遣 費	0	400,000	都道府県支部総会講師派遣等
渉 外 費	0	110,000	渉外活動等
積 立 金	1,000,303	1,000,000	
予 備 費	0	382,414	
事 業 費			
親 睦 費	202,207	600,000	新入生歓迎ランチ会、ホームカミングデー懇談会、同窓会・クラス会援助等
研究・交流支援費	124,490	600,000	支部総会、コース別研究会への援助等
大学・学生支援費	930,900	1,300,000	学生の食生活支援、鳴潮祭、美術コース修了展・卒業展、サークル活動、県人会（教員採用試験対策）等
諸 費	43,443	100,000	卒業・修了記念アルバム、学内環境整備、自転車リサイクル等
合 計	4,298,544	7,392,414	
次年度へ繰越	2,852,114	0	
総 合 計	7,150,658	7,392,414	

教 職 と 鳴 教

鳴門教育大学学長

佐 古 秀 一

7月初頭に、二人の修了生と対談をさせていただいた。徳島県の榊教育長と高知県の長岡教育長である。榊先生は、1988年3月に大学院を修了され、長岡先生は1993年3月の修了である。母校を訪れられたお二人は、感慨深く鳴教や周辺の姿をご覧になっておられた。

お二人から鳴教の学びについてさまざまなことを語っていただいたが、私が印象に残っているのは次の二点である。一つは、大学での指導教員との出会いである。指導教員の考え方や指導方針からさまざまな影響を受けたことや研究指導の場で交わされた言葉について、活き活きと語っておられた。二つには、鳴教で進められた研究がその後の仕事に役だったと述べておられたことである。特に、お二人とも大学院で取り組んだ研究が、単に仮説が検証された（正解をたしかめた）とする研究ではなく、曖昧な事象や仮説と異なる結果に対して、事実を積み上げ解釈をすすめ新たな知見を導き出すという研究であり、その経験がその後の仕事に役立ったと語っておられた。お二人の鳴教での経験は、今風の言葉で言えば、探究的な学びである。

教職は、不確実性の高い仕事である。具体的子どもを前にしてその子どもにどう関わればよいか、そこにあらかじめ正解を想定することは難しい。むしろ、処方箋を求めてさまようのではなく、その子どもの実態や課題を丁寧に見ながら教師の実践を組み立てていくこと、そしてさらにその実践の意味や効果を反芻してさらに改善していくことが、教育課題が複雑になりつつあるこれからの教師には求められるのではないかと。主体的で探究的な実践者としての教師像である。

お二人との対談を終えて、鳴教が今後ともこのような教師を育む場となるよう力を尽くしたい、との思いを強くした次第である。

連 絡 事 項

1. 第8回鳴門教育大学ホームカミングデー及びコース別ランチ会のお知らせ

- (1) 開催日 令和5年11月18日（土）
- (2) コース別ランチ会 時間 12時00分～13時00分
場所 学生食堂
- (3) ホームカミングデー 時間 13時30分～15時45分
講師 大石 雅章 前理事・副学長
場所 鳴門教育大学 講堂

参加いただける方は、同封の「異動通知連絡カード」でお知らせください。

なお、詳細は別添のチラシをご覧ください。

2. 鳴門教育大学同窓会のホームページのご案内

同窓会の役員一覧、会則、同窓会・クラス会への後援援助金支給基準等の会計規則が掲載されています。同窓会のホームページは鳴門教育大学のホームページから入れます。

3. 住所等の変更届のお願い

住所等に変更があった場合及び本学学部卒業及び大学院を修了の方で郵便物が2通届いている場合は、同封の「異動通知連絡カード」でお知らせください。

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748

鳴門教育大学同窓会事務局 土 井 榮 次

電 話：090-5279-1466 e-mail：nueaa@naruto-u.ac.jp